

平成 22 年（2010 年）の雲仙岳の火山活動

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○2010 年の活動状況

・噴煙など表面現象の状況（図 1）

噴気活動は低調な状態で、噴気の高さは 10～20m（最高高度は 100m）で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 1、図 2、表 1）

火山性地震は少ない状態で経過しました。震源は、平成新山直下の浅いところと橘湾付近の深さ 9～12km に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 3、図 7、図 8）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。8 月 31 日～9 月 2 日に実施した GPS 繰り返し観測では、前回（2006 年 9 月）と同様に火山活動によると考えられる変化は認められず、ドーム及び火道の熱収縮とドーム自体の流動による変形が継続して認められました。

・熱活動の状況（図 4～6）

8 月 31 日に実施した現地調査では、前回（2008 年 12 月 10 日）の観測と比べて熱異常域の分布に変化は認められませんでした。

この資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

※この資料は気象庁のほか、九州大学及び長崎県を経由した九州地方整備局のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

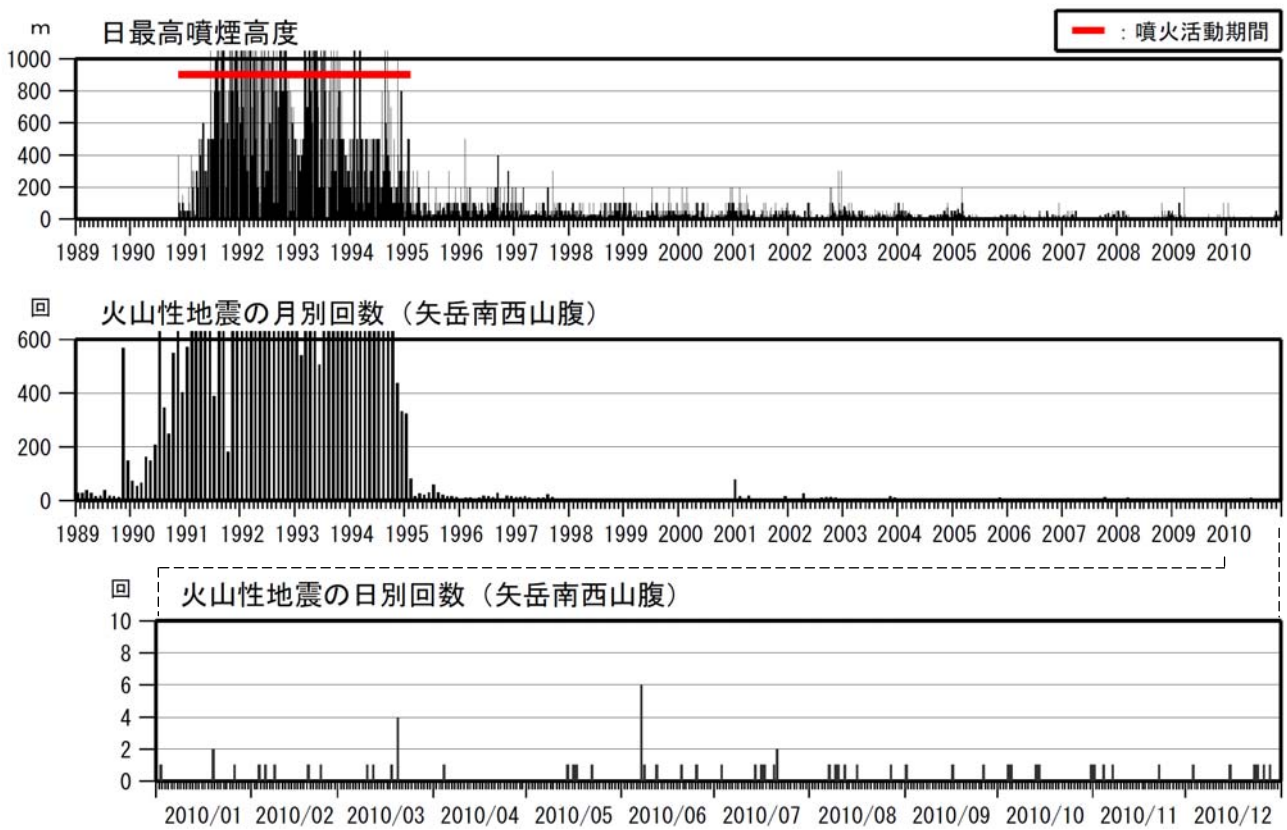


図 1 雲仙岳 火山活動経過図 (1989 年 1 月～2010 年 12 月)

1995 年 2 月の噴火活動停止以降、噴煙活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

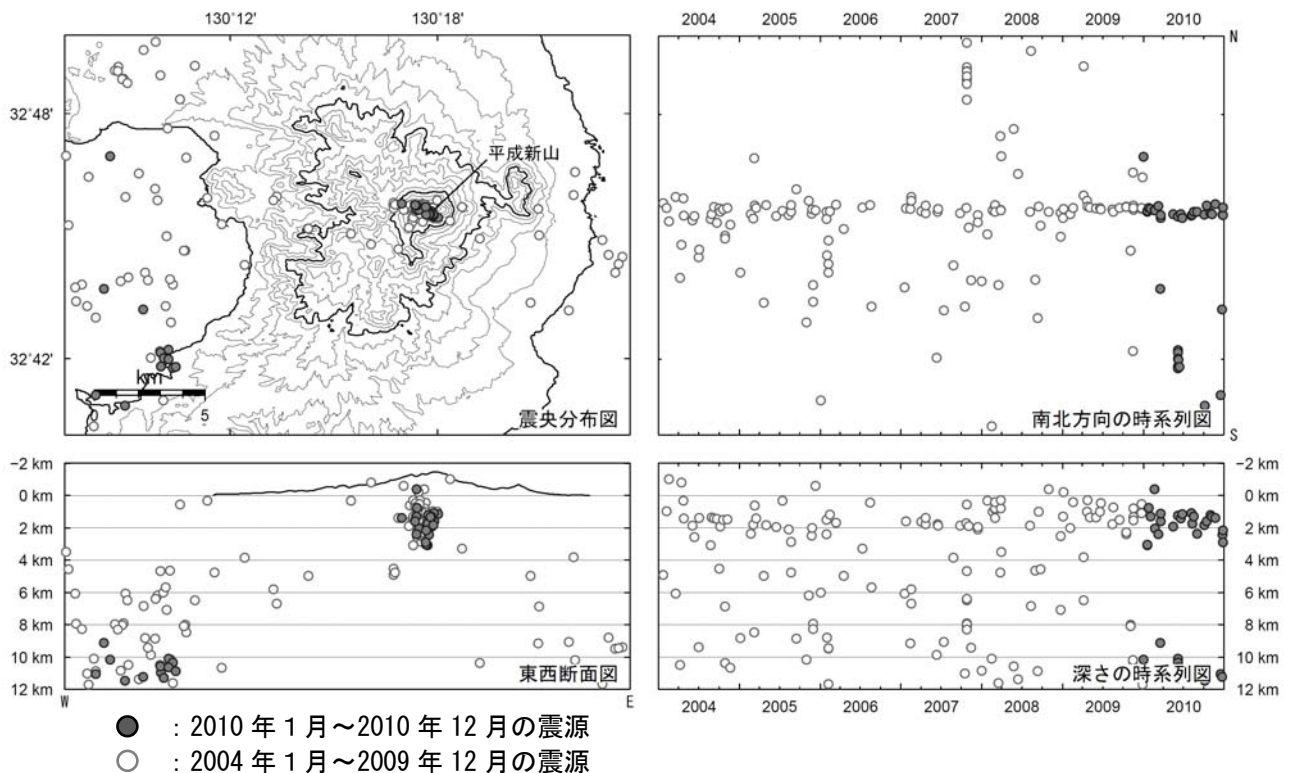


図 2※ 雲仙岳 震源分布図 (2004 年 1 月～2010 年 12 月)

<2010 年の状況>

火山性地震の震源は、平成新山直下の浅いところと橘湾付近の深さ 9～12km に分布しました。

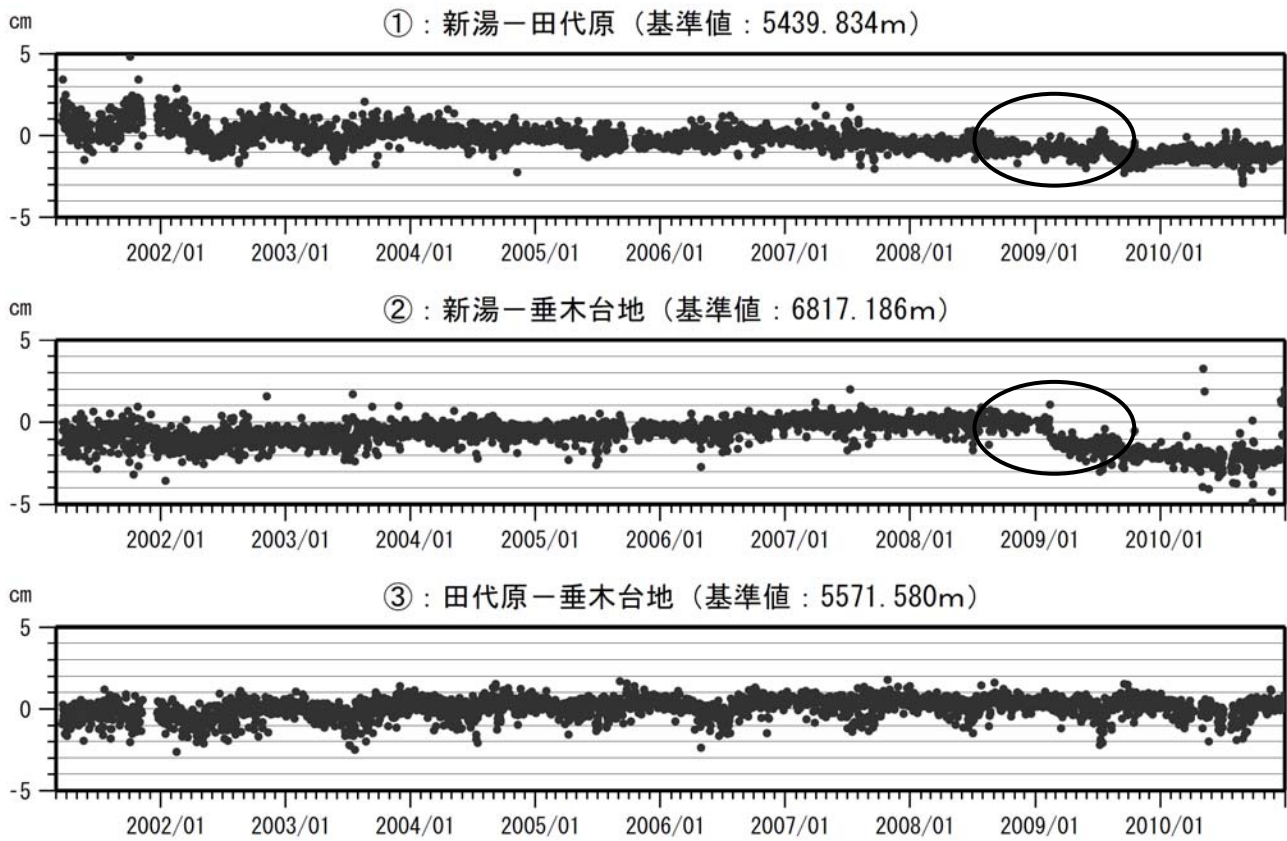


図 3 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化 (2001年3月～2010年12月)

<2010年の状況>

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 8 の①～③に対応しています。

①、②の基線にみられる 2 月からの変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。

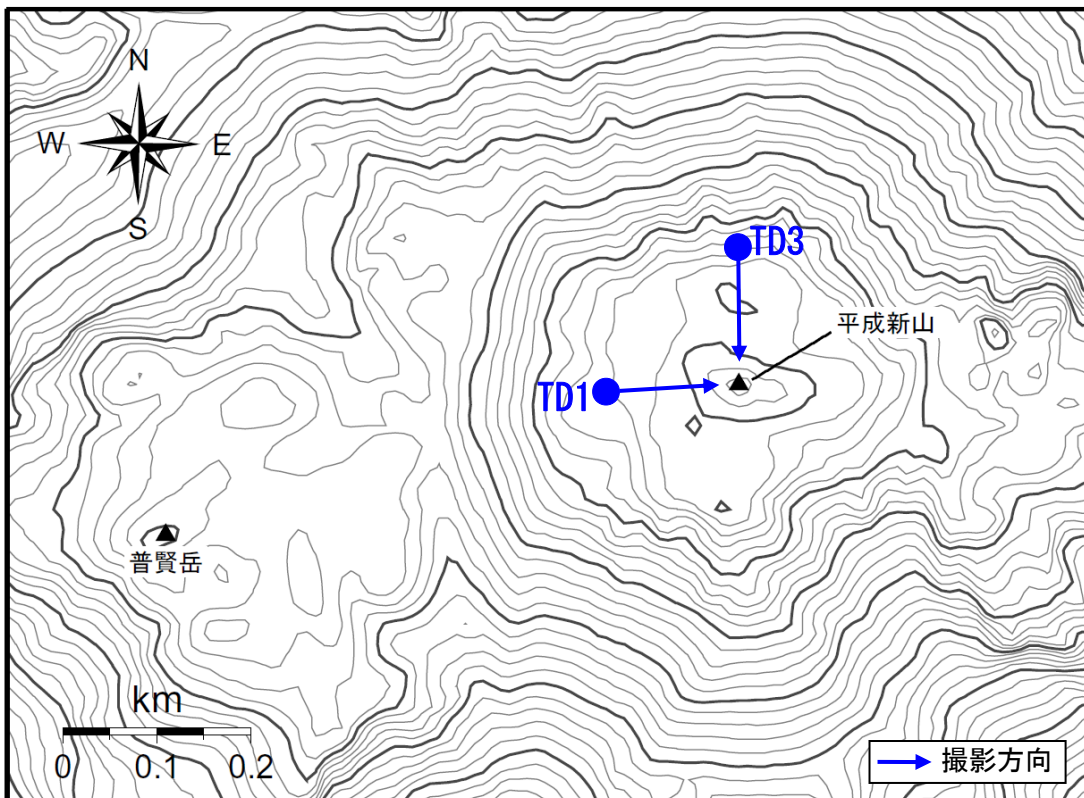


図 4 雲仙岳 赤外熱映像観測点配置図

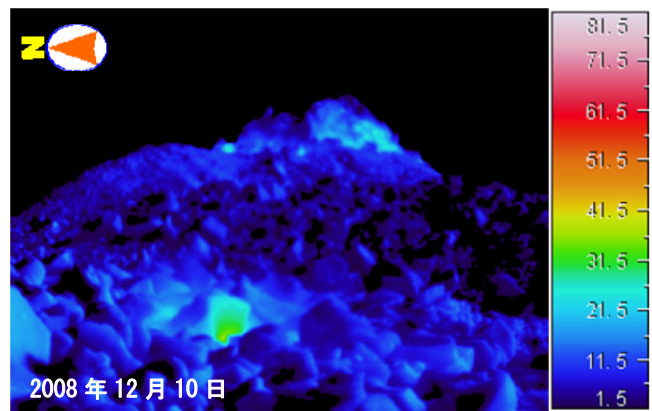
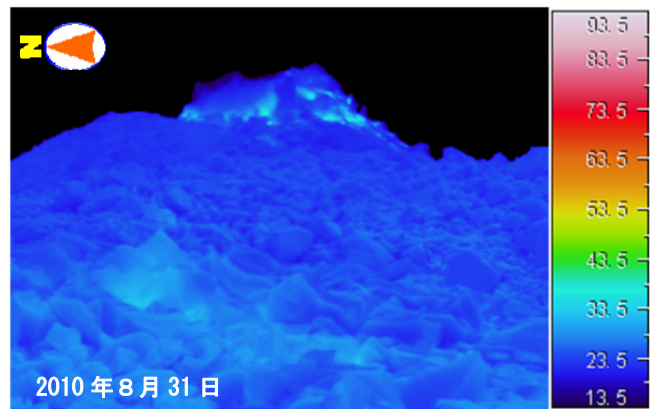


図 5 雲仙岳 赤外熱映像装置による平成新山山頂部の地表面温度分布 (TD1 から撮影)
 熱異常域の分布は前回 (2008 年 12 月 10 日) と比べて変化は認められませんでした。
 赤外熱画像の温度表示は、熱異常域ではない領域の平均温度で調整して表示しています。

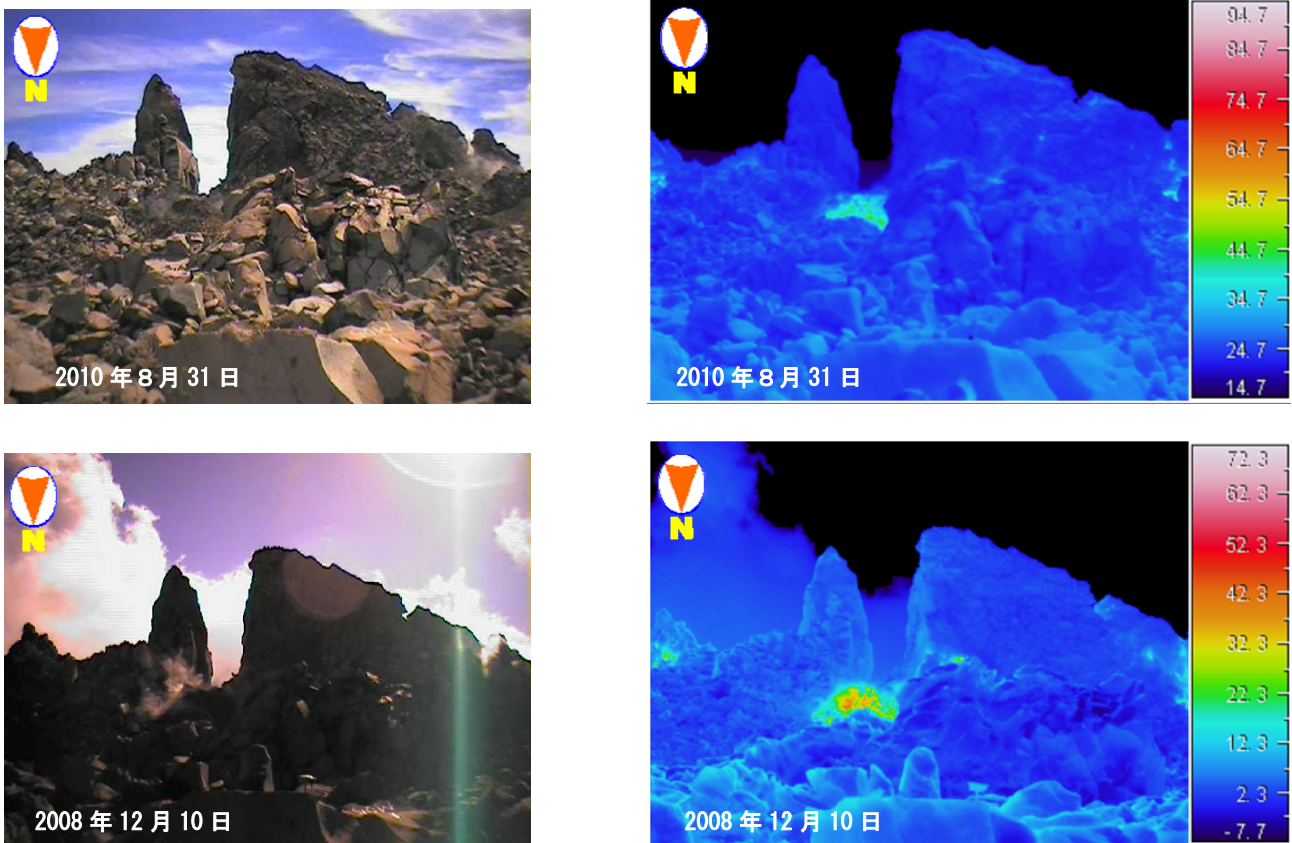


図 6 雲仙岳 赤外熱映像装置による平成新山山頂部の地表面温度分布 (TD3 から撮影)
熱異常域の分布は前回 (2008 年 12 月 10 日) と比べて変化は認められませんでした。
赤外熱映像の温度表示は、熱異常域ではない領域の平均温度で調整して表示しています。

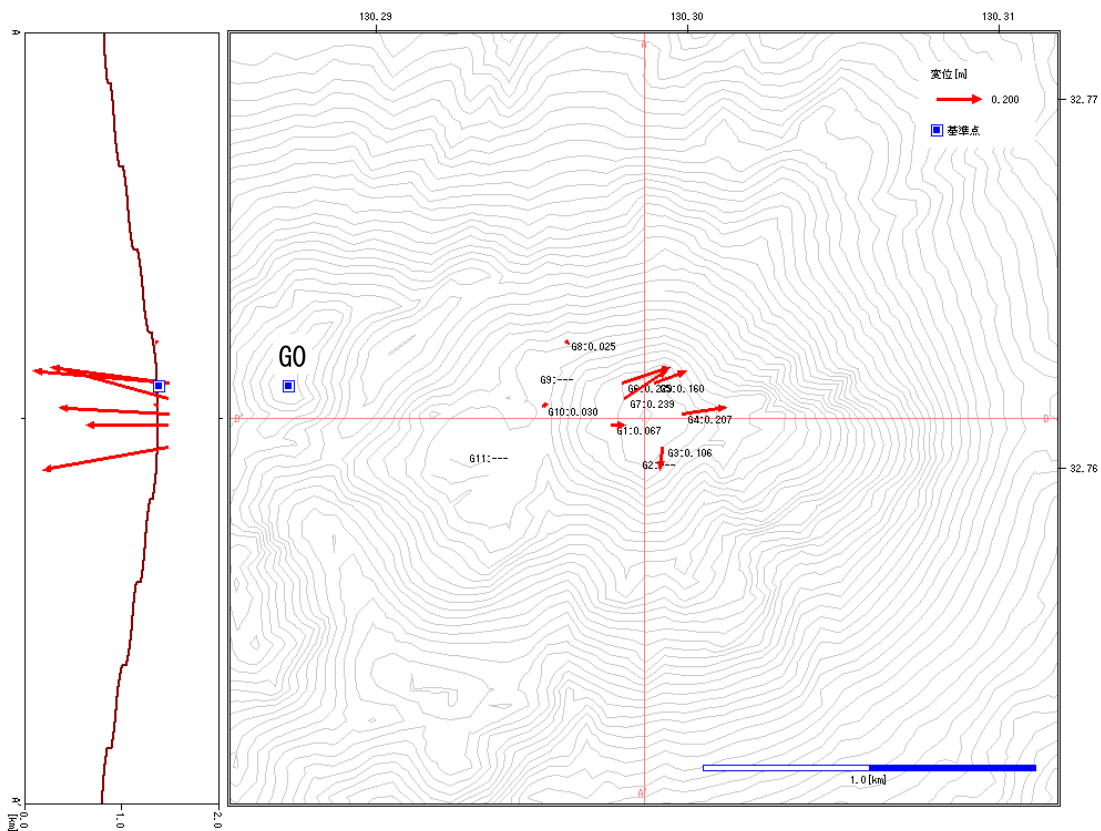


図 7 雲仙岳 GPS 繰り返し観測による国見岳 (GO) を基準とした相対変位変動量
8 月 31 日～9 月 2 日に実施した GPS 繰り返し観測では、前回 (2006 年 9 月 27～30 日) と同様にドーム及び火道の熱収縮とドーム自体の流動による変形が継続して認められました。

表1 雲仙岳 2010年火山性地震日別回数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
2日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3日	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
4日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0
5日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7日	0	0	0	0	0	6	0	1	0	0	1	0
8日	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
9日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
10日	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12日	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0
13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
14日	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0
15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
16日	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0
17日	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
18日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19日	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20日	0	0	4	0	0	1	1	0	0	0	0	0
21日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
22日	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
23日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
25日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
26日	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
27日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
29日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31日	0		0		0		0	0		1		0
月合計	4	5	7	1	4	10	7	6	3	5	4	6
年合計	62											

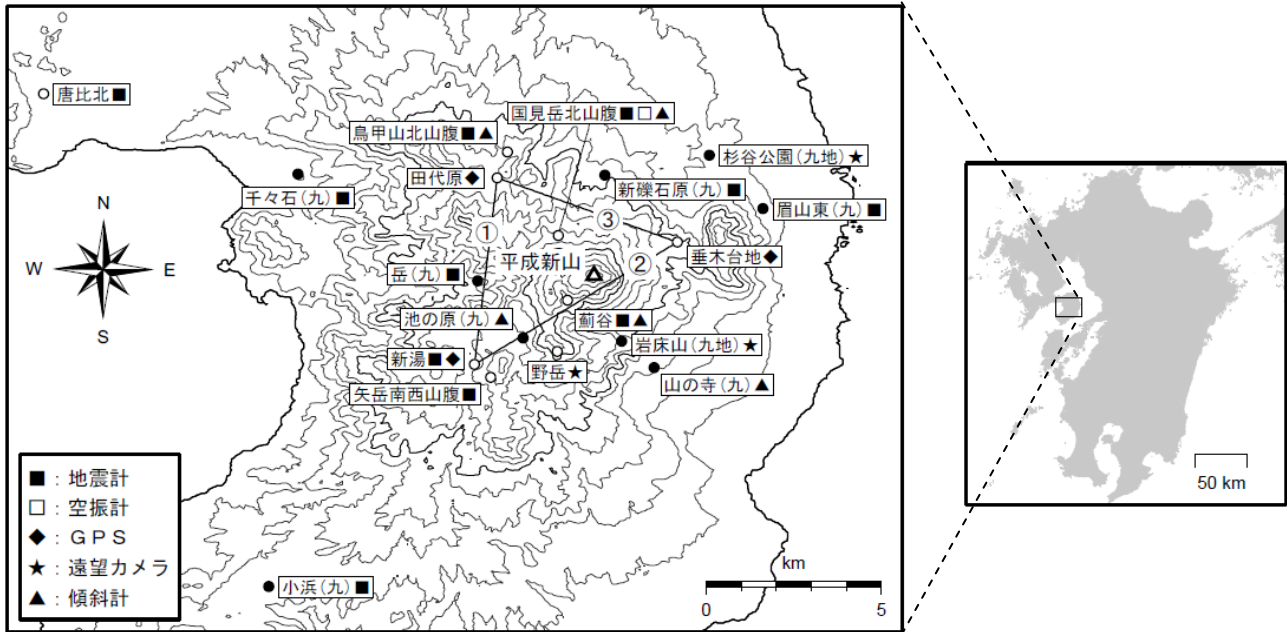


図 8 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。

表 2 雲仙岳 気象庁（火山）観測点*一覧（緯度・経度は世界測地系）

測器種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始年月	備考
		緯度 (° ')	経度 (° ')	標高 (m)			
地震計	新湯	32° 44. 30'	130° 15. 75'	678	0	1994. 3. 25	長周期
	矢岳南西山腹	32° 44. 10'	130° 16. 05'	769	0	1967. 4. 1	短周期
	国見岳北山腹	32° 46. 31'	130° 17. 31'	834	-124	2010. 12	短周期
	鳥甲山北山腹	32° 47. 60'	130° 16. 35'	655	-150	1992. 5. 20	短周期
	薊谷	32° 45. 30'	130° 17. 45'	1, 075	0	1997. 4. 1	短周期
	唐比北	32° 48. 50'	130° 07. 87'	66	0	1992. 4. 4	短周期
空振計	国見岳北山腹	32° 46. 31'	130° 17. 31'	834	2	2010. 12	
GPS	新湯	32° 44. 3'	130° 15. 8'	678	2	2001. 3. 1	二周波
	垂木台地	32° 46. 2'	130° 19. 5'	586	2	2001. 3. 1	二周波
	田代原	32° 47. 2'	130° 16. 2'	640	2	2001. 3. 1	一周波
傾斜計	国見岳北山腹	31° 36. 3'	130° 39. 9'	401	-124	調査運転中	
遠望カメラ	野岳	32° 44. 5'	130° 17. 3'	1, 142		2002. 1	

* 気象庁では、2010年8月2日より火山観測点の名称を変更しました。